

## 【末恒】地域の未来づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 令和6年8月23日(金) 18時30分～20時00分
- 2 場所 末恒地区公民館
- 3 出席者 地区32名 市9名【市民生活部長（協働推進課）、危機管理部長（危機管理課）】
- 4 テーマ 地域防災力の向上について
- 5 概要

### 【地元あいさつ】

いつどこで起こるかわからない災害に、私たちができることは、地域みんなで協力して備えることが最も大事なことはないかと考え、「地域の防災力向上」という懇談会を企画した。

末恒地区が抱える防災に関する課題について議論することで、末恒地区のより安全安心の暮らしを目指していきたいので、皆さんの忌憚のないご議論をお願いしたい。

### 【市民生活部長あいさつ】

この懇談会については、新型コロナウイルス感染症の拡大により、約3年間休止をしていたが、この間自治連の役員の皆さまとの意見交換やアンケート等を行い、再開に当たっては、テーマを決め、テーマに沿って、それぞれの担当部・課がしっかりと議論をすることがこれからの未来を語る会として有意義な会ではないかと始まった。本日のテーマは地域の防災力の向上ということで、危機管理部長をはじめ、危機管理課もフルスタッフで来ており、しっかりとお答えできるかと思っている。時間の許す限りご意見を賜りたい。

## テーマ「地域防災力の向上について」

### ＜避難所の設置について＞

#### 【地元(説明)】

末恒地区については、災害が起きると、自主避難や高齢者避難情報が出るが、避難所のテロップは出てこない。近くでいくと、湖山西と湖山地区公民館が指定されているというのが、テレビやラジオの放送で流れ、地域の皆さんからはなぜそこに行かないといけないのか、なぜ末恒地区の中になのかといった質問をいただいている。場所がないのか、場所はあるが何か問題があって開設ができないのか、そこをお聞きしたい。もし自主防災会とうまく連携ができれば、一緒になってできるのではないかという気持ちもある。何か良いアドバイスをいただきたい。

#### 【危機管理課】

最初に、こういった考え方で避難所を開設しているか話をさせていただく。

本市で避難所を開設する際は、気象の見込みや、河川が近くにあれば、その河川の氾濫の恐れといった状況、また土砂崩れの恐れや土壌雨量指数など、様々な情報を基に避難が必要な地域とその避難先を、市内188か所にある指定緊急避難所の中から指定をして開設している。避難する際に、近くの方が良いというのは避難のしやすさからも重要だと思うが、特に広範囲に影響があ

るような災害の場合などは、配置できる職員数の限りもあり、中学校区という考え方で、昨年の大雨のときは湖山地区公民館を避難所として開設を行った。逆に、末恒地区で、集中的に災害が起きたり、土砂災害の恐れが発生したりするような場合であれば末恒地区にも避難所を開設することになる。これらは、気象等様々な状況を踏まえて対応することになるので、その点についてはご安心いただきたい。

また、昨年の台風第7号のときは、大雨特別警報というあまりないような気象庁の発表もあり、市内全域に緊急安全確保という避難情報を発令した。この情報については、市民の方に今すぐ命を守る行動をとるようにということで強く呼びかけたが、避難というのは必ずしも避難所に行くということばかりではなく、安全な場所に避難するというようなことを呼びかけるものになる。自宅が安全な場所であれば、無理に危険な外に出るということも必要なく、知り合いの家が安全なところであれば、あらかじめそこに避難するような準備などをしていただけたらと思う。

例えば、防災マップの8ページが末恒地区になる。隣のページのオレンジなど色がついているのは、水害の恐れがあるようなところになるが、末恒地区においては近くに大きな河川もなく、水害の恐れが他と比べてそれほど高くない地区になるので、こういった防災マップなども活用いただきながら、冷静に対応していただけたらと思う。

また、他地区のご紹介になるが、市の方で避難所を開設しなくても、例えば、あらかじめ末恒地区の方で何かあれば地区公民館を地区の避難所とすることを決めておき、自主的に避難所として開設し、自主防災会の皆さん等で運営していただくというような事例もある。こういった避難所を支え愛避難所と言っている。末恒地区でも自主防災会で、地区公民館を避難所として訓練などを実施されていると伺っている。特に大きな地震や津波の場合は、実際、市が避難所を開設するのも、時間がかかり、逃げる方たちに間に合わなかったりすることもあるため、自主的に避難所を開設して運営していくのも一つの選択肢になる。今後、ご相談などもさせていただきながら、そういったこともご検討いただけたらと思う。

## 【地元】

結局、自主的に避難所を開設してよいということか。これまでもずっとそのようにしている。私の知る限りでは、気高など新市域では、災害に限らず、何かあれば地区公民館みたいな風習があり、すぐ地区公民館に行くというようなことになっている。末恒地区はそこまでではないが、やはり身近な地区公民館かなという思いがするのでこれからも自主的に開設させていただきたい。これについて市に報告をしたいが、連絡先はどちらになるか。

## 【危機管理課】

基本的には危機管理課に連絡をいただければと思う。ただ、危機管理課は市の中で災害対策本部が立ち上がり、運営を行うことになっているので、実際のところ電話に出ることは、ほぼ不可

能な状況だが、危機管理課に電話をしていただければ、情報班が対応し、庁内の災害情報共有システムでしっかりと全体で情報を共有するようになっている。

ただ、実際のところ、支え愛避難所ができれば、必ず速やかに支援ができるということはお約束しかねる部分もあるということをお伝えしておきたい。支援をしないということを上申しているわけではないが、災害の状況や、進捗具合等、例えば、去年の台風第7号で言えば、やはり被害の大きかった佐治地域や河原地域の方に支援を集中していくというような考え方をどうしても取らざるを得ない部分もあるので、全市的な災害になった場合には、若干のタイムラグが出てくるということはお承知おきいただき、地域でできる準備を進めていただけると大変ありがたい。

### 【地元】

公民館が支え愛避難所になった、開いているというような情報はテレビやラジオで流すなど、そういう対応はしていただけるのか。それがうまくリンクしないと誰も来ないのではないかな。

もう一つ、垂直避難という話があるが、垂直避難をするのであれば、それを報道されないと、「避難してください」と言われると、普通の方は垂直避難ということは考えないと思うがどうか。

### 【危機管理課】

まず、避難所の周知について、おそらく言われているのが去年の台風第7号のときの緊急安全確保のときに公民館が開いていたということの周知のことではないかと思うが、大雨特別警報の意味合いとしては、どこでどんな災害が起こっているかは、その場にいる方しか分からないということを行っているものになる。あのときを思い返してみると、全市域に大雨特別警報という一番災害の度合いが高い情報が出て、大変悩みながらの避難情報の発令だったのだが、水平避難というのは大雨特別警報の時点では呼びかけるべきではなく、その場にいる人の判断で身の安全を確保してくださいということと呼びかけるよう、国のガイドラインに示されているため、そういったものに従って呼びかけをさせていただいた。その周知というのが足りなかったのだろうというふうに反省をしている。緊急安全確保というものが出たときには、避難所に行くということではなく、おっしゃるように垂直避難とか水平避難なんかを組み合わせで行動していただくということが、実際の避難行動として我々が呼びかけしたところではあったが、そういったところの平時の周知啓発というところがちょっと弱かったかなというふうに思うところではある。

そういった意味で避難所に行ってくださいという情報ではなかったというところから、避難所を開設するかしないかというところで悩んだが、鳥取市内は広いので安全な地域と安全でない地域とそれぞれあるだろうということで各小学校を開設させていただいた。だが、やはりそれにも時間がかかるということで当時、公民館の方に避難者が来られたら受け入れてくださいという情報を流させていただいたというのがあのときのことになる。公民館に逃げてくださいということを言えば、やはり皆さんがそこに水平避難してしまう、その結果、災害に遭って怪我をされたり

亡くなられたりということが否定できない状況でもあったというところで、避難所として開設しているという情報を流さなかった。そういった安全確認ができていない状況でもあったので、そういった呼びかけをしなかったという判断だった。

### 【地元】

呼びかけをしなかったということだが、（午後）9時になって、末恒小学校を避難所として開設したという情報を流された。これは何だったのか。それに私たちは、すごくびっくりした。流すべきではなかったのではないか。そういうお話をされるのであれば、そういう反省があつてしかるべきではなかった。考え方が揺らいでいるのではないか。災害のときは何が起こるか分からないから、そういうこともあるのだろうが、そこは違うのではないかと申し上げたい。

### 【危機管理課】

災害対策本部で、どのようなことを考えて判断をしたのかご報告させていただく。それが全て正解だったかと言うと、そうではないというのは今のお話のとおりで、それを基に今後どのようにしていくのかをしっかりと考えないといけないというのは、常々思っている。これがあるから全て大丈夫ということではないので、日進月歩していくという姿勢であることをまず申し上げたい。

当時、緊急安全確保が発令されたのが（午後）4時40分だった。防災マップの58ページをご覧ください。5段階の警戒レベルが書いてあるが、実は1から4までの間と、5というのは格段に違いがあるものになる。例えば4までは危険な場所から全員避難ということで、水平避難であれば外に出ましょう、とかということになるが、この緊急安全確保というのは、命の危険があるということで、直ちに安全確保をしましょうというようなレベルの情報になる。何をするかと言うと、例えば、1階にいた場合、1階が危なければ2階に上がって、少しでも命の安全を確保する行動をしようというのがこの緊急安全確保、レベル5ということになる。

なぜこれを出したかと言うと、どこで何が起きているか分からないという大雨特別警報を気象台が鳥取市全域に発令し、それを受け、鳥取市としては、まずは皆さんにそのことをお伝えして、命を守る行動をしていただきたいということで、この情報を出した。その中で、実は、外に出ることは基本ないと思っている。それであれば、どこかに誘導するようなことはあつてはいけないというのが基本だが、そういう情報を全ての人がしっかりと分かっているれば良いが、地域の方でも何かあったら一番身近な地区公民館に逃げ込むというような意識があると思う。だから、そのような方があったときに受け入れられる体制をとらないといけないということがそのときの判断になる。

小学校は（午後）9時という遅いタイミングになった。一遍に開設するという情報を出すのも一つの手だったが、それを出すと皆さんがそこに避難することが考えられ、どこで何があるか分からないという状況の中で外に出て欲しくないというのも一つあり、そうすると誰も運営ができていない、開いているかどうか分からないところに向けて、避難所を開設するという情報を出

すのは、まずいということで、市の職員が現場で安全を確保しながら一つずつ開設をし、安全が担保できるところから開けて情報を出させていただいたというのがそのときの動きになる。

これらの情報については、今で言えば、鳥取市全域が同じことをする必要もなかったと思っている。どこで何が起きているか分からないということで、いち早く緊急安全確保を出したが、各地域で特性が違うので、そこはそれぞれの地域の皆さんで、今回はどうしようかというようなことを判断していくということも必要ではないだろうかと思っている。

改めて、防災マップの8ページを見ていただくと、命を取られるところまでの浸水というのはないだろうというのがこの地図で現われている。何を警戒しないといけないかと言うと、赤で囲ってあるところがある。これは土砂災害の危険な地域ということなので、そういうところにすごい雨が降って土砂崩れがあるというときには危ないので、そういうときにはここから逃げましょうということになるが、それ以外のところに、例えば町内会の集会所があれば、そこに行こうとか、そういったようなことをあらかじめ決めておいて、そこで運営していくというのが、支え愛避難所ということになる。そういったような運営もしたいというのが鳥取市の今の考え方になる。

これを機会に、地域の中で、自分の家、あるいは自分の町内がどういった特性のあるエリアかといったような部分を、改めて確認するなどお願いできたらと思う。それに対し、どういう行動をとればよいのかということがあれば、危機管理課で随時ご相談を受け付けさせていただく。

どういった情報をしっかりと伝えていかないといけないのかというのは昨年から、自主防災会の方でも会長会等を開き、皆さんからご意見をいただきながら、検証、検討をしている。垂直避難に関しては、「直ちに高いところに逃げよ」というような言い方をそのときさせていただいたかと思う。防災行政無線でそれを言うわけだが、なかなか聞こえないというような話も聞いている。放送やアプリ等、鳥取市の方でいろんな手段を持っているので、ご相談いただければ、紹介させていただきたい。

## 【地元】

自主避難所の開設を、今までもやっておられるところもあるということだが、その場合、自主避難所開設に伴う経費面について、どういう考え方でやられているか。今まで開設されたところについてどれくらい出ているか教えてほしい。

## 【危機管理課】

経費の面でいけば、鳥取市が指定した避難所についてはみているが、地域の中で、町内会や集会所等で運営されている部分について、鳥取市でみるということは、今までないのが実情である。

## 【地元】

例えば、着の身着のままで、自主避難所に避難され、お茶の1本でも皆さんに飲んでもらおうとか、わずかな経費でもみていくような度量がないといけないと思うがどうか。

【危機管理課】

ご意見として承る。そういう形ができれば良いとは思いますが、なかなかそこまでいっていないのが実情である。防災マップの65ページに、非常持出品・備蓄品の準備について掲載している。よく、自助・共助・公助と言われているが、やはり自分の命を守るわけで、自分たちでもやっていくべき備えをしておかないといけないということで、例えば、3日分くらいの水や食料品等を持ち出しやすいように、自分で何とかお願いできないかというのが今の統一した考え方になる。これをさらに、充実させていくことについては考えていくべき方向性だとは思いますが、現状としてはこのようにお願いをしている。

【地元】

結論として、末恒地区に、自主避難や高齢者避難情報が出たときに、避難所はできるのか、できないのか。

【危機管理課】

できるかできないかということだけで言えば、できないという選択はない。そこを選べばということになる。ただ、千代川の西側のこのエリア、あるいはこの中学校区のどこに設置をしていくのかというときに、避難の状況を図や、危険性、雨の降り方などを見て一番相応しいところを選んでいく。皆さんから、近くにとということもお話としては承っている。全地区に、避難所の開設ができれば良いが、なかなかそういった状況にならないというのは、何とかご理解をいただきたい。先ほどあったように、末恒地区で土砂災害が発生したり、発生のおそれがありとても危ないということであれば、すぐに逃げてもらうこともあるので、こちらの方に鳥取市の指定避難所を設置することもあるというふうに思う。状況によることになる。

【地元】

結論としては自分たちでなんとかしないといけないという話になるのか。

【危機管理課】

設置していない部分は、鳥取市としてそういう判断をしている。その中でも、危ない、不安だということで、自主避難所を設置していこうということは、各地域の方でやっていただいているところになる。

【地元】

末恒の自主防災会の方で避難所をつくれば、テロップ等で流していただけるのか。

【危機管理課】

指定の避難所については流すが、地域が設置した避難所について全体に流すことはない。そういうところは、地域の中の自主防災会等でどうするかを考えている。例えば、有線放送で流したり、連絡網で周知したり、必ずどこかに避難してもらわないといけないことが分かっている人については、個別に声かけをするといった対応をさせていただいている。

【危機管理課】

例えば、昨年被害の大きかった佐治地域でも、佐治地域の中にいくつも避難所が立ち上がるわけではない。細長い大きな地域だが、公設の避難所は限られてくるので、今、佐治地域では、公設の避難所に行けない集落は、自分たちの集落の中でどこが安全なのかを皆さんで話し合い、その中で、備蓄品や、避難場所をどこにするか等、事前にできる備えをそれぞれの集落の中で話を進めているのでご紹介させていただく。

【地元】

去年の災害を見たら絶対に市の職員だけで人が足りないのは分かりきっている。もっと前もって早めに地区公民館なりに、準備や対応について、声かけをしていただきたい。また、市民に向けては、被害の恐れが少ないところは、初めから避難所の設置等については地区公民館に確認をしてもらおうとか、そういう案内をしてもらえれば問い合わせがあっても対応ができる。みんなに状況が分かるような方法をとっていただけるとありがたい。これは末恒に限らずどこの地区もそうだと思っている。

【地元】

高齢者等避難が出て、末恒には避難所が開設できないと考えた場合、去年の台風のときに実際、公民館が空いていることを知らないけど来た方がいた。たまたま1家族3人程度で済んだが、これが10、20人と来て、そして一晩過ごさないといけないというようなことになった場合、実はこの公民館には備蓄品がほぼ何もない。あるのは指定避難所である小学校の中になる。例えば、水分が欲しい、毛布が欲しいということが起こった場合、小学校を開けて備蓄品を取りに行ってもいいのか。市の指定避難所である小学校と、我々公民館、自主防災会との連携については、どのように考えているのか教えていただきたい。

【危機管理課】

実際にそうなったときに、取りに行ってもいけないという話はない。まずは現場での対応で命を守ることに資するような行動というのは、妨げるものではない。柔軟に対応できるものは対応したいと思っている。

## 【地元】

今年から小学校の玄関の鍵を地区が預かることになり、公民館で保管している。本当に緊急の場合は学校を開けて垂直避難するという話はよいが、学校の体育館の鍵を持っている地域とない地域があるようで末恒地区は持っておらず、体育館が開けられない。そうすると、備蓄品を取るために、小学校の校長先生や教頭先生に連絡をとって、開けてもらわないといけないというようなことが起こると思うがその辺りについてはどうか。

## 【危機管理課】

以前は、いざというときに命を守るためには、まずは窓を壊してでもというような話をずっとしていたが、なかなかそれも現実的ではないので教育委員会と時間をかけて協議し、学校施設に入れるように鍵を渡すというような形にしている。体育館も鍵が出ているところもあり、体育会が持っているということであれば、例えば地域の自主防災会の方が体育会の方から鍵を借りて開けるといったことを妨げる状況ではないので、そこも臨機応変な対応ということで考えている。調整はさせていただくので、何かあればご相談いただきたい。

## 《自主防災会との連携について》

### 【地元（説明）】

同じような話が出ているが、いろんな状況を見ていると避難所開設については、もちろん市役所職員が来られるよりも地元の人の方が早く対応ができる。もっと自主防災会を信用していただき、連携を十分にとっていただくようなシステムを考えていただければ、去年の災害のときも、夜の9時に小学校を開けるようなことにならなかったのではないかと考えている。自主防災会は、一生懸命様々な訓練をしたり、準備をしているので、連携をとり、自主防災会が活動できるようにすることで、早期に避難できる等、住民のためになるのではないかと考えるがどうか。

## 【危機管理課】

鳥取市の職員だけでやっていくことは難しく、地域の力をお借りして、地域の防災を守っていくことがどうしても必要な状況で、鳥取市としても自主防災会との連携は本当に重要と考えている。今の連携の仕方としては、研修会を開催し、いろんな防災に関する技術や知識等を取得していただき、それを地元の方に広げていただくことで、防災に関する理解が増え、それが地域の防災力を高めるということに繋がっていけばと考えている。また、各種助成制度を活用いただくといった形で、市の職員とも意思疎通を図りながら事業をやっていると思っている。

実際の災害のときの連携のことが主だと思うが、災害のときには、とり防メールで災害時の避難情報や緊急情報なども直接メールでお知らせするようにしている。その後のというのが実際はないが、連絡を受けて、次にどのような活動が必要か、自主避難所をどうやって運営していくのかというようなことも、今まで、研修などでも避難所運営等も項目としてやっているの、そう



いった形でいろんな知識などもあらかじめ得ていただき、メールを受けて地元でも活動していただくことを期待はしている。

例えば、末恒地区で高齢者避難の情報が出たということを個別に連絡し、こういったことをしてくださいというお願いができればよいが、災害時はとても連絡が難しいような状況があるので、こういった情報が来たらどうするかということも、ぜひ地域でも話し合っていていただき、自主避難所の開設や、どういう対応をするかというようなことも踏まえた訓練をしていただいて、災害に備えていただけたらと思っている。

#### 【地元】

本日も防災リーダーが数多く出席している。明後日も研修があるようだが、せっかく一生懸命自分の意識を持って資格を取っていただいているので、ただ訓練やお金だけではなく本番でも生かせるような体制や仕組みを作っていただきたいと思っているので、よろしくお願いしたい。

#### 【地元】

先ほどからの話を聞いて、支え愛避難所と鳥取市が開設する避難所があり、この前の末恒でのことは、（午後）9時に小学校に避難所が開設され、その前は公民館に自主的な避難所があった。話の流れでいけば、小学校に支え愛避難所ができ、そのまま鳥取市の職員が来て指定避難所になれば一番良いのではないかと思った。鳥取市の避難所の開設マニュアルがあるかと思うが、それを地域と共有ができれば、最初に支え愛避難所を開設するときに、速やかに移行しやすいような流れが、地域と作っていければよいのかなと思う。前回の意見でいけば、最初から小学校に支え愛避難所という形ができて、そのまま指定避難所に移行できれば、無駄がない部分もあったと思うので、そういった意見交換ができればよいのではないか。

それと、さっき言っていた防災行政無線について、仕組みがいまいち分かっていないが、地域ごとに放送ができると思う。以前、村の避難訓練のときに一度だけ使わせていただいたことがあり、鉄塔の下ボックスに受話器を挿すとそのスピーカーから声が流せたが、これは今もその流れなのか。公民館等地区のどこかに放送機があったりすることはないか。

#### 【地元】

地域で、10か所くらいあると思う。それぞれ個々の皆さんが放送の管理者になっている。防災に関することに使ってよいと聞いている。

#### 【地元】

インターネットだと高齢者の方がスマホを見られなかったり、テレビで流せば見るかという、テレビ離れが進んでいたりする。聞き取りにくいということもあるが、皆さんに伝えようと思ったら意外と放送が一番大事で、例えば、支え愛避難所の開設のお知らせに使えたりしないかと思った。

【地元】

伏野と中の茶屋で末恒小学校の横の潮止樋門を委託で管理している。農業用のものと思われるが、津波が来たら閉めるのかとか、あやふやなところがある。防災的な位置づけはないものなのか。

【地元】

防災関係で作られたものではない。ただ、防災関係に使えるかということ、実際津波が来たときなんかでは使えるというふうに理解してもらえたらと思う。

【地元】

消火栓にホース等がついているが、市から設置の補助があるか。消火栓ボックスのホースで65ミリのホースがついているが、どう考えても65mmのホースは重く、取り扱いづらく、初期消火に適さない。消火栓自体はそのまま、40mmのジョイントをつけて使えばよい。これからの時代、特にお年寄りが多くなっていることもあり、そういうことを考えないと自主防災の活動が厳しい。その辺りを見直す機運はないか。

【危機管理課】

消火栓の経口は、時代や地域によって様々なように聞いている。おっしゃるようにジョイントをつけて小さな経にして使っておられるというようなことも聞いたことがある。基本的に水道局が設置しているというところもあり、消火栓がどういう状態になっているのかというところの確認から始めないといけないかとは思いますが、最近は50mmや40mmといったところを使っておられる地域も多いように聞いている。

【地元】

今までは65mmのホースを更新して補助が出るという形だったが、ジョイントと40mmのホースで助成をしていただけるか。

【危機管理課】

自主防災会に対しての助成は、今現在は格納箱しかなく、ホースに関しての助成はない。

【危機管理課】

訓練をしたときに出している助成があるので、そういったものを活用していただきたい。高齢者の多い地区では、地区の防災訓練の助成を活用して細いホースを揃えられているところもあるので、比較していただき、よさそうであればご検討いただきたい。

【危機管理課】

以前は、ホースの補助も行っていたが、今はいろんな防災に関するグッズがあり、地域の方で持っているものも違っており、何にでも使えるように用途を限定しない形の補助にしている。購入に対しての補助ではなく、訓練をされた地域に、いくらというような形で出しているが、使い方を限定することはない。防災に関する部分に使っていただければ結構なので、地域の方でご検討いただけたらと思う。

【地元】

災害のときに、公民館を開けてほしいという連絡は、協働推進課から公民館にあった。命令系統が2本立てになっているような気がしたが、どのような命令系統になっているか。

【危機管理課】

昨年場合は、盆ではあったが平日の（午後）4時40分というような時間帯で、公民館を開けておられるところもあり、地域の頼りになる公民館に逃げてこられる方があるということで、災害対策本部の中で協議し、開いている公民館があれば維持していただこうと連絡をさせていただいた。手順としては、災害対策本部の中で関係部長が話をして、所管する部署から連絡をさせていただいたというのが前回の話になる。動きとしては、全体で把握をして進めている。

《総括》

【地元】

1点目の末恒地区内に、自主避難所、高齢者避難所が開設できないかという課題については、地域の自主防災会が、公民館を支え愛避難所として開設し、連絡方法は、あくまでも地域の中にある連絡網で連絡をするということで理解してよろしいか。

【危機管理課】

現時点ではそのような形になる。具体的にどのようにしていこうかというようなことがあれば、ご相談いただきたい。意見交換をさせていただく。

【地元】

今後はそのようにさせていただきたい。

次の自主防災会との連携のあり方については、ケースバイケースだとは思いますが、やり方についてある一定のものをご提示いただけると良いかと思うが、今後考えていただくということでよろしいか。

【危機管理課】

できる部分とできない部分があるかと思うが、それぞれの地区でこういうふうにしたいというような話があれば、それに基づいて連携をしっかりとらせていただきたい。

#### 【地元】

先ほど、まとめの中で自主防災会の避難所を公民館にされると言われたが、その前の話の段階で小学校が指定避難所になっていると言われた。また、公民館には備蓄品がないとも言われた。それであれば、逆に公民館ではなく最初から小学校に決めてしまった方が地区としては動きやすいのではないかな。

避難する人の立場から考えたときに、レベルによって場所が違っていると、最初に出された議題の内容と一緒に、「なんで末恒地区に避難所ができなくて、湖山地区とかに避難所が指定されるのか」と言っているのと一緒にではないかと思う。最初から末恒小学校が避難場所になるのであれば、なおかつ末恒小学校の前は公民館よりも高い位置にあるので、安全面で考えたときにも避難しやすいし、小学校や教育委員会との連携もとりやすいのではないかな。段階的にと言われてしまうと、その段階になったときに、また教育委員会や小学校と連携をとらないといけない。避難は段階があったとしても瞬間の話で、そのときにどうなるかなんて分からないわけだから、最初から最高の段階ところに持ってきた方が良いのではないかと個人的には思う。

#### 【危機管理課】

まさにそれらを地域の皆さんで話をして、同じ認識に立つということが大切ではないかな。一つだけ言うと、学校となると必ず教育委員会等にも事前に話をして、教育委員会の意見を聞く必要がある。また、例えば、体育館であれば床で過ごしにくいというところもあるが、公民館などは和室が使えたり、エアコンの関係などもある。いろんな材料があるので、それをどうすべきなのかということを自分たちで考えていくというのが大切だと思う。必要な場合には危機管理課も協議に加わせていただき、いろんな材料も出させていただきたい。これからはしっかりと一緒になって取り組んでいかせていただけたらと思う。

#### 【地元】

今の意見も、自主防災会で話をして、施設の方も考えていきたい。

#### 【市民生活部長】

活発なご意見をいただき感謝を申し上げる。非常に有意義な時間だったと思っている。皆様と市が考えていることは一緒に、市民の皆様の安全をまずしっかりと考えていきたい。今日は、少し基準的なところでお答えをさせていただいたが、具体的な例をもっと言っていれば、柔軟に対応できるところもあるかと思うので、今日いただいたご意見をしっかりと内部に持ち帰って検討させていただきたい。